

幼児期に感じられた 本能的な喜びの経験が 好きな道を進む礎に

フードディレクター 横山あり沙さん



立体的な差を体感し 感覚的に体系を理解

ピンクタワー、茶色の階段、赤い棒など、寸法に関する教具^{※1}がとても好きでした。1と2の厚みのブロックを重ねると、3の厚みと同じになるから上に真つすぐブロックをのせられる、などという発見がうれしかったですね。しかも、違う教具でも同じ規則でつくられているため、ピンクタワーと茶色の階段を組み合わせてもこの規則性の発見が役立ち、わくわくしたのを覚えています。異なつて見えるものと同じ法則を応用できることが、好奇心をくすぐりました。

学校の成績にとらわれず 自分の好きな道に進む

小学2年生のころ、一律の学校教育に違和感を覚え、拒否していた時期がありました。評価基準も偏っていて、私の得意なものには価値がないと言われていたように感じたのでしよう。でも、成績にとらわれずに我が道を行き、その後は迷わず美大へ進学。学校側は困ったと思いますが、私は幼児期から好きだったことをし続けました。その裏には、常にモンテッソーリ子どもの家で経験した喜びが心のなかにあつたと思います。学校の成績という観点にしぼる



子どもの家時代、ピンクタワーに夢中になる横山さん(左)。

と、先生から「頑張つて」と言われることはあつたものの、親から注意されることはありませんでした。私にとってはそれが救いで、好きなことに没頭する自分を否定せずすみまして、それが「な

んとかなる」精神をつくつてくれたのかもしれない。私もまわりに流されませんが、親もよく世間の評価に同調せずに、私を見守つてくれたと感謝しています。

幼児期に本能的に喜びを感じられること(手指を動かしたり感覚に訴えたりするお仕事^{※2})を得たのは、幸せなことでした。その感覚を信じて生きてきて、いまでも幸せです。悩みは尽きませんが、いまの幸せは新しい家族や自分の家族、友人たちのおかげ。そういったものに恵まれ引き寄せることができる人間になったことが、もしかしたらモンテッソーリ教育の一番の影響なのかもしれません。

親からの
メッセージ

「気づき」を知ったことで 親子共に「自立」ができた

(母・志おりさん)

モンテッソーリ教育の影響は、親子共にあつたと思います。大きな影響として強いて申し上げるなら『自立』でしょうか。もともとあれこれ手をかけるほうではなく、自分でやれるようながす親だったし、そうありたいと思っていました。

たとえば、お支度やお着替え。毎日きちんとやるわけではありませんでしたが、子どもたちが一人でやろうとするのを見て、「子どもたちは、いま自分でやりたいんだ」と気がつきました。それはモンテッソーリを知つたからこそだと思います。

※2 モンテッソーリ教育で、子どもたち一人ひとりが「自分づくり」をするために行うさまざまな活動のこと。
「お仕事」とはイタリア語のLAVORO(仕事、労働)の直訳。

※1 モンテッソーリ教育で使う道具のこと。詳しくはP64参照。

失敗から学び 次に備える繰り返しが 粘り強さを育んだ



医師 白木 秀門 さん

人との関わりを学んだ 少人数・異年齢の環境

好きだったのは、パン粉づくりや野菜を切るなど料理に関わるお仕事です。いまでも母がよく子どもの家で料理をつくってきた思い出を話してくれます。

同級生は自分も含めて5人で、少人数だからこそほかの園児との距離が近く、人との接し方を学べた環境でした。先生方も園児一人ひとりに親身になって接してくださり、先生方のやさしさに多く触れたのも思い出として残っています。また、縦割り保育で異年齢の子どもたちと触れ合えたこと

は、兄弟のいない自分にとって学びが多かったです。

周囲からの励ましが やり遂げる力に

実は、失敗や悔しい思いは忘れられないタイプです。ですから自分の気質を踏まえて失敗を分析し、次回に備えるよう心がけています。また、一人のため込まず、周囲に相談するようにしています。失敗から学び次回に備える心がけも、両親からのアドバイスで徐々に身についたことです。この失敗から学ぶ姿勢は、モンテッソーリのお仕事でも積み重ねてきたことのように思います。



野菜を刻むお仕事は、親子の思い出にもなっているそう。

また、これまでを振り返ると、粘り強く挑戦しなければならぬシーンが多くありました。自己完結できるものもあれば、ときには自分にとってレベルが高いものも少なくなかったです。ただそういった場面でも、先生のご指導、励

ましをいただきながら、最後までやり遂げることができました。そのような経験がいま、最後まで粘り強く頑張ることの基盤となっています。これはきっと、モンテッソーリ教育のお仕事にも通ずるものがあるのではないのでしょうか。

ほかに、コミュニケーション能力、思いやり、共感力、忍耐力、根気や粘り強さもモンテッソーリ教育によって育まれたと思います。そして特にいま、仕事で発揮されているのは、集中力です。

モンテッソーリ教育をはじめ、これまでの経験を生かし、謙虚に、そして粘り強く診療できる救急医になりたいと思っています。

 親からの
メッセージ

諦めずに粘り強く取り組む 姿勢が夢を叶えた



(母・聖代さん)

困ったことが起きても諦めずに、何ができるかを考えられるようになったと思います。たとえば、双六をしようとしてサイコロがなかったことがありました。親は別のゲームにしようと思いましたが、息子は「展開図を書けばサイコロはつくれる」と言って、

サイコロをつくったんです。子どもの家では先生が指示をせず、子どもに解決させていたからだと思います。粘り強く試行錯誤しながら、物事に取り組む姿勢も培われました。忍耐力、根気よく取り組む力がなければ、医師にはなれなかったと思います。



答えを教えて もらえない環境が 自分で考える力に

東京大学理科三類

H.S

さん

ランチの準備も園児が 協力してやり遂げる

子どもの家では園児に任される
ことが多いんです。たとえば、お
弁当の時間の前に机の上を整頓し
て移動、台拭きで拭くという一連
の流れも、先生に手伝ってもらう
ことはほとんどありません。毎日、
子どもたちが相談しながら作業を
分担してやるんです。このような
臨機応変に助け合って物事を進め
ていく経験を通して、責任感や協調
性が養われたと感じています。

お仕事で印象に残っているのは、
丸いビーズが1、10、100、
1000個ずつつながった、十

進法が感覚的に理解できる教具で
す。それをお金に見立てて渡した
り、お釣りを考えたりする銀行ご
っこが思い出に残っています。

家庭でも自分で 考えるよううながされた

中学受験では、進学先を選ぶと
きに両親と意見が合わず、何日も
議論をしました。結局、自分の希
望を押し通したのですが、人生で
はじめての大きな分岐点で自らの
選択に基づいて学校を決められた
ことは、その後の学生生活の充実
につながった気がします。

もともと手助けされたりセーブ
されずに、自分のペースで物事を

至るまで思考の礎です。

もちろん、頭でたくさん考えて
も失敗することはあります。そん
なときは早く頭を切り替えるのが、
自分のなかの鉄則となりました。

家庭や園でのびのびと頭を使い、
考える習慣がついたことは、自分
にとって一生物の財産を得たと、
ありがたく思っています。

答えを自分で探す 習慣が大きな力に

考えて進めることが好きでしたが、
自分のその性格を理解してか、家
庭では自分で考えて行動すること
をうながす育て方をしてもらって
いたと思います。

たとえば、「雲はなぜ下に落ち
てこないの?」「音って何ででき
ているの?」といった素朴な疑問
を投げかけたときに、両親は適当
にごまかすでも、正しく解説する
でもなく、「自分で考えてごら
ん」と私に任せるんです。答えを
教えてもらえないので、仕方なく
自分で考えたり本などで調べたり
するのですが、ときには5年や10
年間もわからないままのこともあ
りました。ただ、こうした経験を

思い返せば、この「答えを教え

てくれない」姿勢は子どもの家も
同じで、お仕事をするうえで答え
は提示されず、いつも自分で考え
て取り組んでいました。自分の興
味の赴くまま、のびのびと楽しみ
ながら知的能力が発揮できる環境、
また自分の頭を使う過程こそが、
かけがえのないものでした。こう
した環境のもと、幼いころから考
える習慣がついたことが、いまに

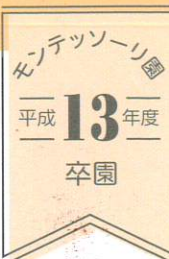


卒園証書を受け取るH.Sさん。

Interview 5



答えは示されず
自分で考える経験が
問題解決能力を育んだ



会計監査
(サンフランシスコ在住)

辻 香緒里 さん

子どもの家では先生から答えは教えてもらえず、時間がかかって自分でも問題を解かなくてはいけません。でもそのおかげか、どう問題を解決すればよいか考える癖がつきました。この問題解決能力は、社会人になってからも大切だと痛感しています。解き方はさまざまありますが、最後には答えを導き出さなければなりません。モンテッソーリのお仕事によって、いろいろな方法で答えにたどり着く訓練ができたのではと、いま振り返って思います。

お仕事への取り組みが
答えを導く訓練に

親からの
メッセージ

自由が尊重される環境で
行動、決断できる子に



(母・敦子さん)

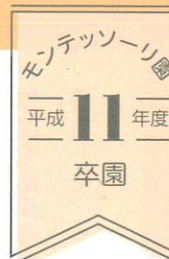
幼児期は特に、自分の意思で自由に行動させてあげたいと、子どもの家への入園を決めました。自宅でも、あれこれ私から指示をせず、積み木やブロックなどで自由にあそび、失敗を恐れず、新しいこと、知らないことでもひるまず挑戦するようにうなが

していました。「自由に選ぶ」権利が尊重されているモンテッソーリ教育のおかげか、自分の意思で行動でき、決断できる子に育ちました。仕事をするようになってからは、多様な考えにも折り合いがつけられるようになってきたようです。

Interview 4



母がいつも「大切」と
言ってくれたおかげで
自己肯定感が育まれた



看護師

藤 巻 ひかり さん

やりたいお仕事と思う存分やれて、のびのび過ごせるところが好きでした。特にピンクタワーが好きで、夢中になって積み上げたのを覚えています。こうした環境が、やると決めたらやりきる力や、物事を頭のなかで順序立てる力を育んだ気がします。

また、母は誰の前でも堂々と私のことを「いい子で大切」だと言ってくれました。それが自己肯定感につながったのは間違いありません。そして私自身、ほめ上手になったと思います。

夢中になれる時間が
やりきる力に

親からの
メッセージ

常に「自慢の娘」だと
人前で言い続けました



(母・由美さん)

周囲に変わった人と思われようともわが子を信じ、どこでも誰の前でも、娘をほめるようにしていました。それを娘は純粋に受け取り、自己肯定感が育まれた気がします。また、小学生になった娘に「『何してあそぶ?』と友だちに聞くと『なんでもいい』『ど

っちでもいい』と言う子が多くて困る」と言われたことがありました。わがままでも自己中心でもなく自分の意見をしっかりと伝える力が、モンテッソーリ教育では育まれているのだと、そのときに感じたことをよく覚えています。